

里地 担い手

体験交流 里地と人の豊かさ

里地の魅力を知る活動のひとつは、都市生活者にとって貴重な野外体験活動です。人工林の手入れ、広葉樹の植林・管理、里山林の育成、棚田の維持保全、農作業体験、ため池や水路の補修、ビオトープづくりなど、保全活動を都市生活者を含めて行うことで、新たな交流とものの流通、定住化のきっかけになります。

事例 かまくらし 神奈川県鎌倉市

森林ボランティアによる里山の維持管理

森林ボランティアへの参加者は、ここ数年急速に増えています。人工林や里山の手入れ、炭焼窯の設置、竹林の整備など、森林の中で楽しみながら整備を進めています。

鎌倉市では、中学校の卒業前に里山の手入れを行う特別授業が行われています。

国有林、市町村林だけでなく、手入れされていない共有林、民有林も含めて、森林ボランティアとの交流が近年盛んです。



市民団体の方から作業手順を聞く中学生



卒業前に里山の手入れを行う中学生



グリーンボランティアによる林内散策道づくり



除間伐材を活用するために、昔ながらの方法で黒炭窯を復活させた

きさかたまち
事例 秋田県象潟町

全国から人が集まる植林活動

戦後の天然林伐採、拡大造林の後、植林樹の管理や再生が行われていない山があります。山の植生の変化は、水を通して、田畑、河川の生物、海の漁獲資源へと影響を及ぼしています。かつての植生を取り戻すことで、豊かな里地づくりを行う活動は、全国各地に広がっています。

鳥海山では、ブナ植林とブナの森の恵みである水を利用した環境保全型稲作を通じて、付加価値の高い安全な米の生産販売が進められています。



大漁旗のもと、漁業者 農業者 ボランティアがブナの森づくりを行なう



水を育む鳥海山



植林活動で生まれた人のつながりが、新たな产品销售や体験交流事業をつくる

なかつえむら
事例 大分県中津江村

グリーンツーリズム・農家宿泊で里地づくり

農繁期に都市住民が数週間から数ヵ月間民泊し、農作業を手伝う農業体験が行われています。熱意のある若年層を受け入れ農作業などを通じた交流を深めることで、農地の保全管理と里地の担い手育成を行っています。



山村体験キャンプを通じて、里地づくりへの関心を高める



グリーンツーリズムは生物と里地を学ぶ機会となる